

## 7月のテーマは「緩和ケアへの取り組み」です

### 緩和ケア病棟で活躍している、作業療法士Kさんにインタビューしました！！

#### Q1：緩和ケアにおけるリハスタッフの役割は？

A1：当院では、がん患者さんに対する緩和ケアに取り組んでいます。緩和ケア病棟は看護師主体の病棟ですが、当院ではリハビリ職種への介入を積極的に行い、在宅復帰や生活の質（QOL）の向上に向けて、各療法士の専門性を活かした様々なアドバイス、外出・外泊前の動作訓練や介助指導を主に行っています。

また、患者様や御家族様の希望や不安などを傾聴し、一緒に考えていくことも大切な役割の一つです。

#### Q2：今一番力を入れていることは何ですか？

A2：大きく二つあります。まず一つ目は緩和リハビリにおけるプロトコル作成です。各患者様に対するリハビリの提供時間・量や終了のタイミングについては、現在、各スタッフの意見を取り入れていただいています。そこでプロトコルを作成することにより、客観的な指標に基づいた適切な訓練時間の提供や終了時期の決定ができると考えています。

二つ目は患者様がお亡くなりになられた後の、御家族様や関わったスタッフの精神的ケアです。御家族様はもちろんのこと、関わったスタッフにも患者様に対して様々な思いがあります。その取り組みの一つとしてデスカンファレンスというものを月一回行っています。

#### ★デスカンファレンスとは・・・

月に1回、院内で開催しています。

目的は、亡くなった方のケアを振り返り今後活かすこと。

そして関わったスタッフ間での気持ちを共有することです。

その患者様の担当スタッフや関わりのあったスタッフ以外でも参加可能となっています。

#### Q3：やっていてよかった！と思うことはどんなことですか？

A3：患者様と一緒に立てた目標を達成できたときです。例えば“この日までに家族の前で歩く”や“外泊する”、また“年一回の花見への参加”や、“作業活動で取り組んだ作品の完成”など患者様によって様々です。これらの目標と一緒に達成でき、患者様や御家族様と喜びを分かち合うときが1番やっていて良かったと思います。

Q4：大変なことはどんなことですか？

A4：緩和患者様の多くは痛みを伴うため、薬剤により痛みをコントロールしています。そのコントロールが上手くできていない場合もあります。また夜間など不安や孤独を感じやすい環境下で不穏になられる方もいます。その場合、リハビリではできることが少ないため、何もできない自分の無力感を痛感します。後からあの時何かしてあげたかった・・・と思っても、そのときにはアイデアが浮かばず、悔しい思いをする時もあります。

Kさん、御協力ありがとうございました！

ここで、訓練の様子をご紹介します・・・

## 患者様の Hope「焼肉を食べにいきたい！！」

この目標を実現するため、理学療法士 Kさんが車椅子への移乗訓練をおこないました。

移りますよー！



疼痛コントロール下での介入や環境設定などの苦勞がありました。お店には食べに行くことができませんでしたが、調理訓練としてかわり病棟で念願の焼肉を食べることができました。

緩和ケア病棟だからといって特別なことはしていません。急性期や回復期リハビリと同様、患者様のニーズ、QOLの向上のために専門職として関わることに変わりはありません。他の病棟と違って大きく身体機能やADLを向上することが難しくても、患者様の希望をかなえる、QOLの向上を目指すところに意義があると思います。

文責：中脇照浩、野村陽子